

1年を振り返って



荒川づくり協議会

会長 伊藤 賢之

荒川づくり協議会平成18年度事業活動も順調に推進し、特に荒川流域5回のクリーンアップ大作戦においては、官・

民総勢800人余の参加のもと、大成功でした。先般環境庁発表によりますと、猪苗代湖と荒川の水質が日本一に選ばれました。国土交通省河川ランキング初めて一位と併せ嬉しく思います。今回、荒川流域歴史的治水・砂防施設の社会的評価と利活用の検討委員会も発足しました。

県内外から多くの方が荒川自然探訪に来ていただけることは大きな喜びであります。

平成19年度も協力し合い、充実した活動を進めて参ります。



江戸時代の露堤

木炭の生産拍車

小中学校28校の花壇に1,000kg配布

当協議会が国土交通省福島河川国道事務所の委託を受けて始めた木炭の生産が本格的となった。荒川河川敷のマツクイムシの被害で枯れた松や、不要なニセアカシア等を伐採したものを土釜と石釜で木炭に焼き、出来上がった木炭は希望する学校や各団体、クリーンアップ作戦の参加者らに配布し好評を得た。11月末には市内の小中学校28校に計1,000kg配布、花壇の土壌改良等に役立てていただいた。

他県より協議会視察及び 会員とディスカッション

行政に頼らず、頼られる、もの言う会を目指し活動をしている当協議会に、県内外各団体の視察研修が続いた。9月には山形の河川愛護団体（エビキタスないやしの会）25名。10月は栃木市河川愛会20名。12月は山形市市会議員15名。3月は宮城県涌谷町消防団世話係会20名が資料室を訪れた。県外4団体については、極力多数の役員が応待にあたり、その他の団体については事務局で応待にあたった。



視察風景



懇談会

会長による各団体への挨拶に次いで、事務局より当協議会の趣旨、経過、活動内容の説明があり、各団体との質疑応答など、活発に意見交換がされた。その後、水林自然林の観察や四季の里の見学、場合により大暗渠を案内した。

写真上は栃木市の愛護会に大暗渠堰堤の働きを説明する国交省の担当者。写真下は山形の愛好会との意見交換の様子。

荒川クリーンアップ大作戦

平成18年は計5回実施、1回目の6月25日は、自衛隊や一般参加者約450名が5箇所に分かれ清掃活動を行った。写真は12月8日に40名が参加して行われた。4回の実施で延べ800名が参加した。



県議会の森周辺の除草の様子



作業終了後の記念写真

荒川大将塾

3年目を迎えた大将塾。18年は親子だけでなく大人も対象に実施した。当初計画は計4回の実施だったが、夏のホタル観察会は雨でホタルが飛ばず中止となった。春の荒川源流探訪に始まり、秋の植物と昆虫の観察と芋煮、冬の自然観察まで、荒川流域の豊かな自然を目と耳と鼻と舌で味わった。



源流探訪会（民有の森入口にて）

荒川再探訪会

18/8/26(土)

一般の人が普段訪れることのない、大暗渠上流を探訪。40名が岩をよじ登り、藪を切り分け、川を左右に渡った。参加者は天沼のへつりに感動したり、カジカガエルの姿を観察し、その鳴き声に耳を傾けるなど、夏の荒川を堪能した。



水林自然林にて

サケの稚魚放流

19/2/22

好天に恵まれた2月22日、三河台小と吉井田小の4年生170名が参加。児童らは、バケツに入った5cmほどの稚魚を手の平からそっと川に放し、再び荒川に戻ることを願いつつ、泳ぐ様子を見守った。



荒川クリーンセンター裏側